

INFORMATION

令和3年度（第60回） 農林水産祭天皇杯等の選賞について

農林水産省は令和3年10月6日、同5日に開催された農林水産祭中央審査委員会第2回総会（会長 難波成任氏）において、令和3年度（第60回）農林水産祭の天皇杯受賞者、内閣総理大臣賞受賞者、日本農林漁業振興会会長賞受賞者が決定されたことを発表した。表彰は、勤労感謝の日（11月23日）に明治神宮会館で開催された農林水産祭式典において行われた。

1. 農林水産祭天皇杯等の選賞とは

本年度の天皇杯、内閣総理大臣賞及び日本農林漁業振興会会長賞は、過去1年間（令和2年7月～令和3年6月）の農林水産祭参加表彰行事（207件）において、農林水産大臣賞を受賞した345点の中から決定された。各賞は、農産・蚕糸部門、園芸部門、畜産部門、林産部門、水産部門、多角化経営部門、むらづくり部門の7部門に授与された。また、女性の活躍が著しい2点に対して、内閣総理大臣賞と日本農林漁業振興会会長賞が授与された。天皇杯の受賞者は表のとおり。

農林水産祭は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業者の技術改善及び経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と公益財団法人日本農林漁業振興会の共催により昭和37（1962）年から実施されている。

2. 畜産部門における各賞の受賞者

(1) 天皇杯

1) 出品財 経営（肉用牛繁殖）

【長命連産の優れた繁殖性の長期継続で高収益和牛経営を実現】

- 2) 住所 鹿児島県曾於市
3) 氏名等 森岡 良輔・森岡 恵理香
4) 表彰行事 第50回日本農業賞
5) 受賞理由

(1) 地域の概要

曾於市は、鹿児島県の東部を形成する大隅半島の北部に位置し、農業産出額481億円のうち83%を畜産が占め、畜種別では肉用牛が第1位で、子取り用雌牛頭数は県の約1割を占める畜産の盛んな地域である。

(2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

介護福祉士であった森岡良輔氏は平成19年に経営を受け継ぎ、栄養士であった妻の恵理香氏は平成27年に経営参画し、共に両親の下で技術の研鑽に努め、自家産牛による繁殖牛の更新と増頭で堅実に規模拡大を図ってきた。

(3) 受賞者の特色

令和3年度（第60回）農林水産祭天皇杯受賞者一覧

部門	出品財	受賞者		表彰行事
		住所	氏名等	
農産・蚕糸	経営 （水稻、大豆、飼料米ほか）	宮城県 仙台市	農事組合法人 仙台イーストカントリー （代表 佐々木 均）	第50回 日本農業賞
園芸	経営 （玉ねぎ）	北海道 北見市	きたみらい玉葱振興会 （代表 加藤 英樹）	第50回 日本農業賞
畜産	経営 （肉用牛繁殖）	鹿児島県 曾於市	森岡 良輔 森岡 恵理香	令和2年度全国 優良畜産経営 管理技術発表会
林産	経営 （林業経営）	和歌山県 田辺市	山長林業株式会社・ 株式会社山長商店 （代表 榎本 長治）	全国林業経営 奨励行事
水産	産物 （水産加工品）	鹿児島県 枕崎市	枕崎市漁業協同組合 （代表 市田 恵八朗）	鹿児島県漁業 振興大会第54回 水産物品評会
多角化経営	経営 （6次産業化）	長崎県 大村市	株式会社シュシュ （代表 山口 成美）	令和2年度 6次産業化 優良事列表彰
むらづくり	むらづくり 活動	熊本県 上益城郡山都町	白糸第一自治振興会 （代表 山村 伸吾）	第43回 豊かなむらづくり 全国表彰事業

注）森岡良輔氏と森岡恵理香氏は夫婦連名での受賞。

・優れた繁殖経営の長期継続

長期にわたり、分娩間隔は12ヶ月未満、子牛生産率は90%以上、平均産次は6産以上と長命連産の優れた繁殖成績を継続して達成している。

・低い子牛生産費用と高い所得率の実現

自家産牛での繁殖牛の更新と増頭による借入金の少ない「健全な経営」と、優れた繁殖成績による子牛生産費用の低減化と所得率の高い経営を行っている。

・科学的分析結果に基づく飼養管理の改善と粗飼料自給率の向上

きめ細やかな繁殖牛及び子牛の管理を行うとともに、代謝プロファイルテストを実施し、更なる繁殖成績と子牛の生産性向上を図っている。また、自給飼料の増産に努め、繁殖牛への粗飼料自給率100%を達成している。

・女性の活躍

森岡恵理香氏は、経営参画後、子牛育成を担当するとともに繁殖データや各種帳簿管理など経営の中核を担い、母のゆき子氏も指導農業者として活躍している。

(4) 普及性と今後の発展方向

森岡良輔・森岡恵理香夫妻の繁殖技術や経営内容は、地域繁殖経営のベンチマークとなっており、諸活動を通じて普及に大きく貢献している。今後は、ICT技術の導入なども検討しており、堅実な規模拡大を図っている。

(2) 内閣総理大臣賞

1) 出品財 経営（稲WCS、飼料用米、稲WCS
収穫受託）

【飼料生産組織として地域の農地を守り飼料を安定供給】

2) 住所 愛知県知多郡東浦町

3) 氏名等 株式会社あぐりサービス（代表 小島
誉久）

4) 表彰行事 第50回日本農業賞

5) 受賞理由

(1) 地域の概要

東浦町は、愛知県の知多半島北東部に位置し、農地は丘陵地で小区画ほ場が多い。知多地域では名古屋市近郊の立地と温暖な気候条件を活かし、野菜、果樹、花き、畜産が発展している。

(2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

地域の農地を守る飼料生産組織として、66haの借地で主に飼料作物を栽培・販売するとともに、県内稲WCS栽培面積の3割にあたる50haの収穫作業を広域に受託し、契約する耕種農家は400以上になる。生産した飼料は牛、豚、鶏と幅広く利用され、糞尿は堆肥として農地に還元されており、耕畜連携の要となっている。

(3) 受賞者の特色

・多様な作物・品種栽培で作業の効率化と適期収穫

小区画ほ場が分散しており、作業条件は恵まれていないが、播種期や収穫期の異なる作物や品種を計画的に栽培することや、省力的な栽培技術の積極的な導入により、効率的な機械の稼働、労働配分、適期収穫を実現している。

・畜産ニーズに応じて高品質で低コストの飼料を供給
酪農家の要望を受けて始めた飼料用とうもろこし栽培や、収穫時のチェックリスト作成、トレーサビリティ体制の構築など、畜産側のニーズや信頼に込めている。

飼料の栄養価当たりの価格を比較すると、稲WCSが輸入乾草の7割、飼料用米は輸入配合飼料の半分以上と低コストの飼料を供給している。

・女性の活躍

従業員6名のうち3名が女性で、2人は大型特殊免許を取得して、男性従業員と同様に作業を行っている。また、1人は630筆の借地契約などの事務作業を担っており、女性従業員は法人になくてはならない存在となっている。

(4) 普及性と今後の発展方向

土地、人材、技術を活用して経営的にも安定した飼料生産組織の優良事例である。担い手不足の耕種農家に代わって飼料生産を行うことは、地域の耕作放棄地の拡大防止や安定的な国産飼料生産の観点から求められており、今後もその発展をめざす。

(3) 日本農林漁業振興会会長賞

1) 出品財 経営（養豚）

【地元酒粕給与による「ほろよい豚」を生産する家族養豚経営】

2) 住所 青森県上北郡横浜町

3) 氏名等 有限会社飯田養豚場（代表 飯田 一志）

4) 表彰行事 令和2年度全国優良畜産経営管理技術
発表会

5) 受賞理由

(1) 地域の概要

横浜町は、青森県下北半島の首位部に位置し、陸奥湾に面する126.55平方kmの臨海山村で、特産品は水産物の「なまこ」と「ホタテ」である。人口は約4,400人、農業就業人口は459人である。総農家戸数160戸のうち畜産農家は43戸、うち養豚農場は2戸である。

(2) 受賞者の取組の経過と経営の現況

昭和57（1982）年に父親から繁殖母豚50頭の経営を継承し、現在は260頭規模の一貫生産を家族労働で実践する優良経営農場で、衛生管理を重視し、かつ地元食材を活用したブランド豚肉を生産し、優れた生産性・収益性を実現している。

(3) 受賞者の特色

・衛生管理を重視したブランド豚の生産

衛生管理を重視する観点から、全ての繁殖母豚を人工授精で自家生産、平成31年には農場HACCP認証も取得し、地元酒粕粉末を添加した飼料給与によって肥育したブランド豚「ほろよい豚」を生産している。

・家族労働中心の優良経営

経営者夫妻、長男と長男の妻、長女、5名の家族労働中心で、全員が明るく、楽しく養豚に従事しており、「家族経営協定」も締結して、優れた生産性・収益性を実現している。

・女性の活躍

5人の家族が主たる労働力であるが、うち女性が3名で、その業務分担を明確化し、労働環境整備に努めている。

(4) 普及性と今後の発展方向

堆肥は近隣野菜農家へ散布し、地域の耕畜連携に大いに貢献している。現在、繁殖母豚300頭規模への拡大を目指し、豚舎・関連設備の新築を進めている。今後、繁殖母豚500頭規模の一貫養豚生産を目指しており、数年後には長男への経営権の委譲を検討するなど将来を見据えた経営を行っている。